

わおん 通信

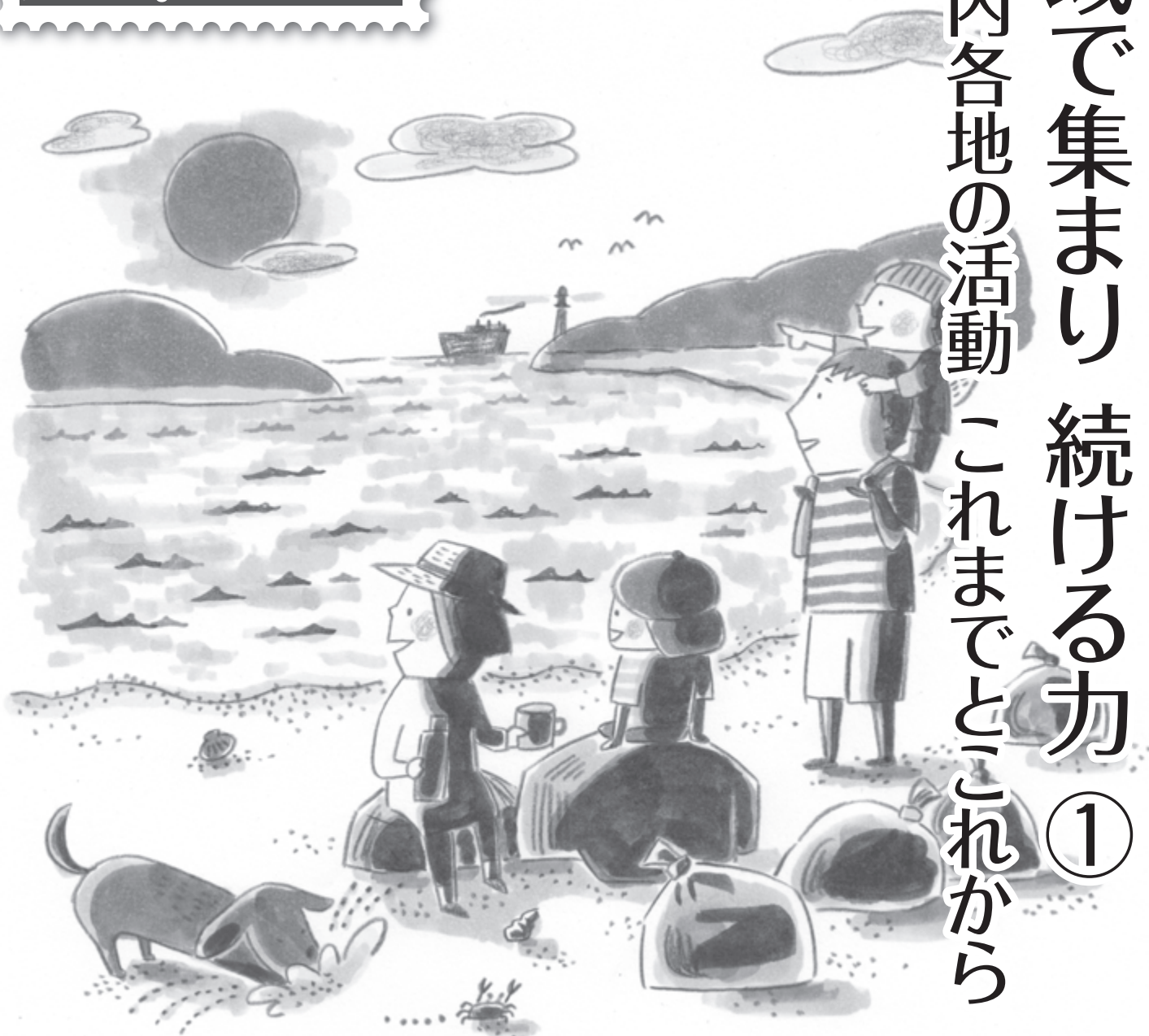
2020
夏号
vol.37

特集

地域で集まり 続ける力

県内各地の活動 これまでとこれから

①



CONTENTS

P2 — P3

地域で集まり 続ける力①

県内各地の活動 これまでとこれから

エコランドいと・はしもと
エコネットきのかわ

P4 — P5

県情報

第19回わかやま環境賞

和歌山県ごみの散乱防止に関する条例を施行しました!!
レジ袋有料化2020年7月1日スタート

P6

なるほど ザ・ワード

推進員 精ちゃんの
ああしたら こうなった 5 (全6回)

P7

推進員さん訪問記^{③②}
「気候危機」を宣言

P8

INFORMATION



近大協働いも発電体験学習会

特集

地域で集まり 続ける力 ①

県内各地の活動 これまでとこれから

2005年、和歌山県で地球温暖化防止活動が本格的にスタートしました。これまでに地球温暖化防止のため、協議会や推進員グループが合わせて6つ発足し、現在も活動を続けています。今後3回にわたって、それぞれの協議会、グループがこれまでの活動とこれからの取り組みを紹介します。

**エコネット
きのかわ**

**エコランド
いと・はしもと**



里山の生き物イベント展示

活動は地域の皆さんとともに
当協議会では、地球温暖化対策の中でも「エネルギー」に着目し、様々な取り組みを行ってきました。その一つが「バイオマスエネルギー利用」の推進です。2009年11月、県センターとともに開催した「STOP温暖化講演会in紀の川」では、近畿大学生物理工学部澤井徹教授に「バイオマスエネルギー―低炭素社会構築のために―」と題して講演いただき、170人を超える方に参加していただきました。

また、紀の川スマートファーム協議会（※）では、サツマイモをエネルギーとして利用する研究をしている近畿大学生物理工学部の鈴木高広教授とその学生らとともに、芋の栽培についての学習や植え付けの体験会を高め、学びを深めることを目的とした当協議会主催の「きのかわ環境フェア」を2011年から2014年まで4回開催しました。初年度は、メインテーマを「エコなまちづくり」とし、私たちのできること」とし、前出の鈴木教授に基調講演をお願いするとともに、地域の小中学校の子供たちによる環境学習や自然体験学習などの発表を行いました。その後も地球環境、人間生活、自然環境の切っても切れない大切な関係を学んだり、3Rに着目して小型家電リサイ

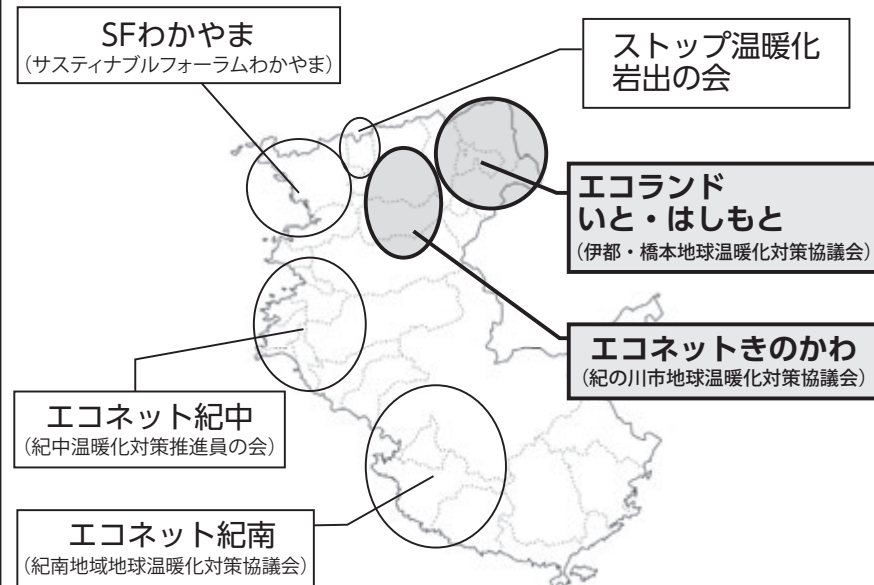
地域の仲間が集まって
始まった温暖化対策
紀の川市地球温暖化対策協議会（愛称 エコネットきのかわ）は、2008年に設立され、40人を超える会員で構成されています。設立以来、市民、地域の企業、学校、NPO、各種団体、行政機関など皆で協力し、日頃の生活や業務から排出される二酸化炭素の削減と、緑化を進める活動を通じて地球温暖化防止活動を行ってきました。当協議会には、「エネルギー」、「環境教育」、「まちづくり」の3つの部会があり、いろいろな職業に就いているメンバーが、それぞれの得意分野をいかし、持続可能な地域を目指して様々な取り組みを行っています。

実施しました。
現在は、協議会のメンバーが自分の会社に電気自動車を導入したり、社屋で太陽光発電を行うなど、エコカーや再生可能エネルギーの導入に力を入れています。
（※）当協議会を含め、以下の団体で構成される協議会です。
近畿大学、紀の川サイクリングクラブ、紀の里農業協同組合、紀の川市農林商工部農業振興課、大環環境株式会社、粉河リサイクルセンター、伊都・橋本地区温暖化対策協議会



子ども環境学習発表会・表彰式

各協議会・推進員グループ



「立ち上がる」
環境保全からの一歩
伊都・橋本地区温暖化対策協議会は、愛称を「エコランドいと・はしもと」といいます。2008年10月に設立し、当初は橋本市を活動拠点としていましたが、2011年5月以降は活動地域を伊都地方にも拡大しました。

本地域の首長や議員にも特別顧問として参加いただくなど、行政とも連携し、地域を挙げた取り組みを展開しています。活動内容は、地球温暖化防止に関する各種啓発活動を基本に、環境教育や里山を中心とした自然生態系の保全活動、有機農業と食の安全の啓発活動など幅広く行っています。さらに、近年は、温室効果ガス削減の取り組みである「緩和」と対になる「適応」の取り組みにも力を入れており、適応策の一つとし

て防災意識を高めるための啓発や子供たちへの環境教育にも取り組んでいます。

「動く」 現状を知り、実践へ

当協議会は、他地域の先行事例や優良事例を研究するため先進地の見学に行ってきました。『持続可能な社会づくり研究会』との名称で、飯田市のあひさの丘メガソーラーいっだや島ノ瀬ダム小水力発電所、あべのハルカスやリマテックのバイオガスを発電所、吉野の木質バイオマス発電所、紀の川のメガソーラーや紀の海クリーンセンターが行う廃棄物発電など、これまで24か所を訪問しました。2017年からは名称を『地「救」を考えるシンポジウム』に変更し、お天気キャスターの気象講演会や気候変動ワークショップを開催したり、大飯原子力発電所や瑞浪市の原子力最終処分研究施設の見学に行ったりしています。2019年には、気象台の調査官を講師として招き、地域の方々にも参加いただいて気候変動の講演会を開催し、特別警報などについても学びました。5回目となる今年度は「地球温暖化と防災対策」と題して、防災とタイアップした「地域防災リーダー研修会」を予定しています。

「伝える」 次世代の子供たちへ

子供たちへの啓発活動としては、協議会内に2016年に「はしもとエコロジー学園」を設立

地域に密着したイベントでの 継続した取り組み

毎年6月に、地元で開催される「環境祭」（主催：NPO紀州粉河街づくり塾）で啓発活動を行っています。このイベントでは、企業、NPO、大学、農業生産者などがブースを出展します。また、地元出身のアーティストの出演や粉河高等学校軽音楽部の演奏などもあり、楽しみながら「持続可能な地域づくり」を考える機会となっています。8月に開催される「好きやっしょ紀の川」夢花火火く紀の川市民まつり」にも、毎回ブースを出展しています。この祭りには、地域の子供たちやお盆休みには帰省している若者など、毎年約5,000人が集います。ブースでは、環境に関するパネル展示をはじめ、温暖化についてのクイズを出題したり、発電自転車「紀つ人君」を設置して発電



市民まつりブース出展・発電自転車

子供たちに未来を
未来に向けた地域支援
2011年からは地域の小中学校の子供たちが、環境学習の成果や環境への取り組みをステージやパネルで発表する場として当協議会主催の「子ども環境学習発表会」を紀の川市内各地域で毎年実施しています。発表会では、紀の川市教育委員会から講評をいただいた後、協議会として「環境賞」、「活動賞」などの各賞を参加校に授与し、子供たちの頑張りをたたえています。どの発表も力作ばかりで、環境への取り組みが各学校で文化として根付いてきていると感じています。会場では紀の川市の小学生が取り組んだ「わかやま子どもエコチャレンジ」の活動レポートの展示も行い、保護者の方に見ていただくなど、保護者を巻き込んだ啓発を行っています。

環境に対する意識を日常的に持ち、行動できるよう、大人も子供も一緒になって続けられる取り組みを今後も展開していきます。



オーガニック料理教室

第19回わかやま環境賞

～令和2年度の受賞者が決まりました～

●わかやま環境賞とは

和歌山県では、平成14年度（2002年度）に「わかやま環境賞」を創設し、毎年、県内において優れた環境保全活動を行う個人または団体を表彰しています。受賞された方々のすばらしい活動を広く知っていただくことを通して、県民の皆さんの環境保全に関する意識を高めるとともに、自ら進んで行動していただくことを目的としています。



わかやま環境大賞を受賞されたアドベンチャーワールド

受賞者（順不同）

(1) わかやま環境大賞

受賞者	活動の名称と内容
株式会社アワーズ アドベンチャーワールド（白浜町）	笑顔あふれる持続可能な社会を実現する循環型パークを目指す 草食動物の糞（ふん）を原料とする堆肥の生産、パーク内で発生した汚水の浄化による再利用、パンダが食べ残した竹幹を利用した「竹あかり」イベントの開催など、26年にわたって様々な環境保全活動を行い、持続可能な循環型パークづくりに取り組んでいる。

(2) わかやま環境賞

受賞者	活動の名称と内容
エスアイエル S I L（有田川町）	廃パレットに新たな命を！ 木製パレットの家具等へのアップサイクル事業 廃棄予定の木製パレットを家具等にアップサイクルする活動を行い、資源の有効活用及び廃棄物の削減に貢献している。
あさり姫プロジェクト（和歌山市）	海を知り、海を楽しみ、海を守る「あさり姫プロジェクト」 地元の小学生とともに、和歌の浦干潟でアサリの保護活動を行うことにより、アサリ資源の復活を目指すとともに、子供たちに環境学習の機会を提供している。
和歌山市立西脇小学校（和歌山市）	地域とともに取り組む環境保全活動 34年にわたり、全校児童による磯の浦清掃活動を継続的に行うなど、地域の環境保全活動に積極的に取り組んでいる。

(3) 特別賞

受賞者	活動の名称と内容
もっとの会（有田市）	もっとの会おそうじクラブ 13年にわたり、有田川河口の清掃活動を親子で行うことにより、海へのごみの流出を防止するとともに子供たちに環境学習の機会を提供している。

和歌山県ごみの散乱防止に関する条例を施行しました!!

わおん通信の前号で紹介しましたプラスチックごみ対策の第2弾です。

プラスチック製品は、有用で生活に欠かせないものですが、その大半は使い捨てとなっており、現状では、残念ながら街で散乱したプラスチックごみを目にすることもあります。街でみだりに捨てられたごみは、河川等を通じて海に流れ着き、海洋ごみ問題の一因となり、海洋環境に影響を与えています。

海洋ごみをこれ以上増やさないため、ごみをみだりに捨てることがないように教育啓発や取り締まりを行うことが大事であると考え、県では「和歌山県ごみの散乱防止に関する条例」(以下「条例」といいます。)を制定しました。この条例では、県民はもとより、和歌山県への来訪者の方も含めて「散乱ごみ対策」に取り組んでいくことを規定しています。

それでは、条例について紹介します。

条例は、2つの柱から成り立っています。

1 教育及び啓発

条例は、第6条で「何人も、みだりにごみを捨ててはならない。」と規定し、年齢や住所など関係なく誰にでも適用されます。

また、県の責務として、ごみの散乱防止に関して必要な教育及び啓発を行うことを規定(第7条)しており、次の取り組みを行っています。

① 「わかやまごみゼロ宣言」のロゴマークの公募(応募期間: 7月6日~9月11日)

環境問題に興味を持つきっかけとして、児童・生徒を対象に、ロゴマークを公募しています。

② 「わかやまごみゼロ活動応援制度」(随時受付)

地域で行われている清掃活動などを、「わかやまごみゼロ活動」として認定し、その活動を支援する制度をスタートしました。詳しくは県庁循環型社会推進課のHPをご覧ください。

2 環境監視員による取り締まり

今回の条例制定を受けて令和2年4月から新たに全ての県立保健所(支所)及び本庁に啓発活動、取り締まり活動を行う環境監視員を配置しました。

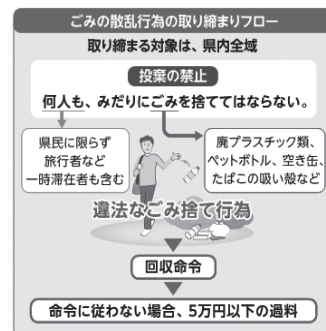
環境監視員は、定期的に巡回パトロールを行う等、ごみの散乱行為に関する監視を行い、違反者を発見した場合は、その場で回収命令を出します。違反者がこの命令に従わなかった場合は、その場で過料を徴収します。

こういった実効性をもった取り組みは全国的に見ても珍しく、この条例に関係者が一体となって運用することで、もっともっときれいな和歌山県をみんなで作っていきます。

なお、条例は令和2年4月1日に施行していますが、罰則規定(過料の徴収)は10月1日からの違反行為に対して適用されます。

わかやまごみゼロ宣言(ごみの散乱を「しない」「させない」「許さない」)へのご協力をお願いします。

*詳しくは、ホームページでご確認ください。



レジ袋有料化
2020年7月1日スタート
レジ袋削減にご協力下さい

環境問題
解決の
第一歩

関連する問合先

消費者向け
0570-080180

事業者向け
0570-000930

エコバッグを持って
街に出よう。

レジ袋削減にご協力ください

これまで私たちが買い物などで当たり前にもらっていたプラスチック製買い物袋(いわゆるレジ袋)が、7月1日から全国一律で有料化されました。

プラスチックは軽くて丈夫で便利な素材である反面、自然界で分解されにくいという性質があります。そのため、みだりに捨てられたプラスチックが海洋に流出すると、海の生き物に悪影響を及ぼします。また、海の「マイクロプラスチック」は2050年には魚の量を超えるという予測もあります。

今、私たち消費者にはプラスチックと賢く付き合うためにライフスタイルの変革が求められています。今回のレジ袋有料化はその一歩。レジ袋の量はプラスチックごみ全体からするとわずか2%に過ぎませんが、その小さな一歩が重要です。買い物の際は、レジ袋をやめてマイバッグを使用することから、プラスチックと賢く付き合っていくことを始めてみませんか。

経済産業省HP





「グリーンリカバリー」

「グリーンリカバリー」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。世界の社会経済は新型コロナウイルス感染症により大きなダメージを受けました。この感染症によりダメージを受けた社会と経済の復興のための対策が必要ですが、この対策が単に元の状態に戻すだけのもの、つまり経済優先で危機的な気候変動や生態系の破壊を伴うものであってはなりません。アフターコロナの世界は気候変動を抑え、生態系を守りながら持続可能な復興を目指していく必要があります。この具体的な対策が「グリーンリカバリー（緑の回復）」です。

この「グリーンリカバリー」の考えは、都市封鎖（ロックダウン）という劇薬を新型コロナウイルス感染症の封じ込めに用いざるを得なかった欧州から始まりました。その後、短期間で世界中の多くの国（政府）が賛同し、施策に取り入れるようになっていきます。

各国の動きを少し見てみましょう。オーストリア政府は、民間の航空会社への救済融資を提供する条件として気候変動を抑制することへの取り組みを要求しました。フランス政府はさらに具体的で、航空会社への救済融資に対して2024年までのCO₂排出量の5割削減を求めました。カナダ政府は、企業への支援策の条件として気候変動を抑える具体策の開示を求めています。ポルトガル政府は、電気代の支払いが困難になっている国民や事業所を援助するため、小規模電力プロジェクトの認可プロセスを簡素化しました。

グリーンリカバリーの考えには多くの企業も賛同

しています。世界的な大企業155社は、各国政府に対して2050年よりも早期にCO₂の排出量を実質ゼロにする気候変動対策を踏まえた復興施策を求める共同声明を発表しました。大企業の多くが、気候変動防止活動に先導的に取り組むことで、自社の価値や企業競争力を高め、経営の成長へつなげようと考えているためです。投資家も同様の考えです。今のところ、日本からの参加企業は4社で、今後の増加を期待するところです。小泉環境大臣も、令和2年6月12日の記者会見において「この気候危機宣言を契機に、より力を入れていかなければいけないのは、今後のコロナ後の経済社会の再開、そして気候変動対策の一つの柱として、政府全体で進めていけるように、私も汗をかいていきたいと思います。ヨーロッパではグリーンリカバリーというふうに言われます。（中略）9月には、私が呼び掛けをした形で、COPのオンラインバージョンのような、そういったものも開催をされる予定でありますし、そこで正に世界が共有するのが、各国どんなグリーンリカバリーを考えているのかというのが共有されます。そこに、日本はいわば日本版のグリーンリカバリーというのは、こういったものであると、国際社会に対しても、しっかり打ち込んでいけるのか、これをこれから作らなければいけない。」と発言しています。

このように政府や大企業の動きが注目されますが、これだけでは不十分だろうと思います。やはり、社会経済活動の主役である私たち一人一人の行動がグリーンリカバリーの鍵を握っているのではないのでしょうか。この新型コロナ禍からの復興の過程では、皆さんの率先的で具体的アプローチが、日本はもちろん、世界をリードしていくことになるのです。



海の向こうで「持続可能な暮らしづくり」奮闘記 ⑤

私が最初にスバ市の廃棄物処理長期基本計画の素案を作ってから、約1年3か月をかけて庁内で議論しました。その結果、計画内容は、私の案どおりになりましたが、残念なことに私の書いた英語はほとんど別の英語に書き換えられてしまいました。そして、最終素案は学識経験者や国の環境省、他の各市町の担当者などによる策定委員会にて修正を行った後、スバ市の決定機関である部長級以上の幹部会で承認されました。何とか私が帰国する直前に無事策定することができました。一番うれしかったのは、完成した後、Launchingという計画完成披露のよう

なパーティーをしてくれ、2年間の私の仕事を労ってくれたことでした。

（次号に続く）



このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

松っちゃんの

推進員さん^{ひよっこ}の訪問記



高野町 岡本ゆかり さん

“おばあちゃんが食べさせてくれた、おいしくて安全な食べ物を提供したい！”

推進員第8期生の岡本ゆかりさんは、高野町生まれの高野町育ち。子供の頃は、自然豊かな山の中で元気に遊んだといいます。大阪の短大を卒業した後、栄養士として和歌山市内で就職し、その後は奈良県内で公務員として20年、そして大阪の会計事務所での勤務を経て、再び高野町に戻ってきました。

推進員への応募は、友達に「エコランドいと・はしもと（伊都・橋本地球温暖化対策協議会）」での活動を誘われたのがきっかけだったといいます。「温暖化のことは全然知らなかったので、養成講座の内容はとても勉強になった。」「アメリカや中国にもっと二酸化炭素を減らしてほしい。」「推進員をもっと増やさないと温暖化を防げないのではないか。」と思ったそうです。推進員の委嘱を受けた時は、これからはいろいろと勉強をしなければいけないので大変だと感じたと振り返ります。

推進員としての主な活動は、真田まつりや公民館まつり等、年4～5回のイベントでの啓発活動です。松ぼっくりや間伐材を使ったクラフト教室を担当したり、田植え・稲刈り等の里山活動では参加者に料理を振る舞ったりしています。また、毎月の「エコランドいと・はしもと」の会議にも出席し、スタッフと活発に意見交換をしています。「行事の参加者やスタッフとの交流は本当に楽しい。」と岡本さんは笑顔で話してくれました。

生活面では節電や節水は心掛けているものの、土地柄から軽自動車での移動が多くなってしまうのが悩みの種だとか。一方、夏は、もともと涼しい高野町ですが、打ち水を活用し、なるべくクーラーは使わないようにしたり、また谷の水をできるだけ利用して水やり等をしたりしているとのこと。

岡本さんの家は先祖から受け継ぐ山林を持っていて、間伐や枝打ちなどに経費は掛かるけれど、二酸化炭素削減のためにも山を守っていききたいといいます。「これからは今まで以上に環境教育が必要になってくる。ごみの減量にも力を入れなければ。特にプラスチック等は自然に返る素材に変えなければいけない。」と訴えます。

岡本さんは料理を作ることが好きで、大阪の会計事務所働いていた頃から月に1度は橋本市に戻って2人の仲間と高齢者に食事を振る舞う活動をしていました。今、岡本さんは食品添加物などを含まず、無農薬の食材を使った食事の提供を目指して頑張っています。岡本さんは言います。「おばあちゃんが食べさせてくれた、おいしくて安全な食べ物を提供したいんです。地産地消の食事こそが、正におばあちゃんが作ってくれた食事そのものなんです。」と。

そして、このコロナ禍の中、橋本市内で本格的にランチカフェを開けるよう奮闘を始めました。

夢を持って頑張っている岡本さんの活躍をお祈りしたいと思います。

「気候危機」を宣言 ―閣議決定された「白書」に明記― 2020年6月12日

6月12日に閣議決定された2020年度「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」に、現状認識として気候変動問題を「気候危機」と捉えられていることが初めて明記されました。小泉環境大臣は、同日行われた会見で「今年の白書を契機として、環境省としてここに気候危機宣言をしたいと思います。」と述べました。その上で、近年発生している国内外の大規模災害に触れ、「我々は危機に直面しており、今後多くのプレーヤーとこうした危機感を共有し、社会変革を促していきたい。」との考えを示しました。

白書では、私たち一人一人が世界的な環境問題の原因の一端を担っていることを指摘し、一人一人ができることから行動する社会変革を促しています。海洋プラスチックごみ問題で注目されているプラスチックですが、その原料である石油を採掘・輸送する際、また使用後ごみとして焼却する際にも二酸化炭素が排出されます。そのため、マイバッグやマイボトルを利用するなどの行動変容が、温室効果ガス削減への小さい一歩になると考えられています。

環境省HPで会見の映像を見ることができます。

URL : <http://www.env.go.jp/annai/kaiken/r2/0612.html>

イベント情報

第17期和歌山県地球温暖化防止活動推進員養成講座

新たに推進員になろうとお考えの方のほか、現在活動されている推進員の方も積極的に参加をお願いします。

田辺市会場 9月5日(土) 13:30~16:30

場所：田辺市民総合センター2階交流ホール（田辺市高雄1-23-1） JR紀伊田辺駅より徒歩10分

和歌山市会場 9月19日(土) 13:30~16:30

場所：和歌山県JAビル11階（和歌山市美園町5-1-1） JR和歌山駅より徒歩2分

申込み・問合せ：和歌山県地球温暖化防止活動推進センターまで

You Tube情報番組

「和くらす～持続可能な暮らしのヒント～」8月開始

◆和歌山県内を中心に地域の「持続可能な暮らしのヒント」を動画で紹介します。

◆視聴者がコメントを重ねることで、さらなるアイデアや工夫が生まれること間違いなし!!

ただいま「持続可能な暮らしのヒント」につながる情報を募集中!!

- ・テイクアウトの容器や包装を工夫しているお店
- ・仲間と一緒にやる清掃活動
- ・食材を無駄なく用いる料理のレシピ
- ・エネルギーの地産地消の実践

など、どんどん「和歌山での持続可能な暮らしの情報」を発信していきます。

ぜひチャンネル登録してください。

詳しくは和歌山県センター Webサイトでお知らせしていきます。

<https://wenet.info/>

うみわかまもる 隊員募集!

～和歌山発の海を守る子供隊員育成スクール開校～
「うみわかまもる」と一緒に海や川の保全について学び、実際にクリーン活動を実施します。

- ・海洋保全の専門家による授業（動画）
動画にはウミガメ「うみわかまもる」くんが登場し、プラスチック問題をはじめとする漂着ごみ問題について一緒に考えていきます。
- ・海や川のクリーン活動
授業で学んだことを実践するため、実際にクリーン活動に取り組みます。どんなごみがどこから流れ着いてきているのか、どうすればごみが無くなるのかを考えていきます。

うみわかまもるポータルサイト上で、みんなの活動の写真や報告を共有し、環境保全意識を高めていきます。参加する際は、保護者同伴をお願いします。



イメージキャラクター
「うみわかまもる」

8月開校予定 ただいま参加者募集中です!

詳しくは HP をご覧ください。

<https://umiwaka.net/>

主催：一般財団法人 和歌山環境保全公社

問合せ：「うみわかまもる」事務局（和歌山県センター）



あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト

わかやま 推進員

検索

イベント情報も随時更新

県センター通信

和歌山マリーナシティ近く、浜の宮海水浴場のすぐ目の前にある県センター事務所を、5月末に「プチ」引っ越ししました。2階から1階に移動したことで、これまで以上に機能的で活動しやすい環境となりました。また、新たなスタッフも迎えてスタートしています。今年度はコロナ禍により社会的に様々な変化があり、人やものの価値観が大きく変わりつつあることを実感している方も多いのではないのでしょうか。そのような変化を見据えながら、県センターとして実効性のある取り組みを関係者とともに進めていきたいと考えています。今後も活動への参加、ご協力をよろしくお願いします。

2020 夏号 vol.37



発行／和歌山県環境生活総務課
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL:073-441-2674 FAX:073-433-3590
mail:e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問い合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター
〒641-0014 和歌山市毛見996-2
TEL:073-499-4734 FAX:073-499-4735
mail:wenet@vaw.ne.jp

